

2012年度 第27回卒業式

山田秀行君ご卒業おめでとうございます
(社)豊栄青年会議所の最後の卒業生
その卓越した能力は私たち現役会員の
憧れでした。卒業されましたが
(社)にいがた北青年会議所の行く末を
見守っていて下さい。



修練

2013年度理事長小林直人君

昨年の総会において長年慣れ親しんだ名称から新しいLOM名に変更することが
可決されました。そして本年1月1日より新生社団法人にいがた北青年会議所
として活動します。名称変更による可能性の拡大。私たちはこの北区内さらに
新しい魅力や感動に出会える事でしょう。非常に楽しみです。
私たち全メンバーは先輩諸兄が、築き上げてきた豊栄JCの輝かしい29年の
歴史、伝統、誇りを引き継ぎ、魅力ある北区内の更なる発展と
未来のためにメンバー一丸となり助け合いながら
困難な事にも実践躬行の精神で
挑戦していきます。

2013年度 1月号

発行元
社団法人
にいがた北青年会議所

2012年度(社)豊栄青年会議所 最後の12月例会・総会

豊栄青年会議所
最後の理事長
長井 裕三 君
お疲れさまでした



新入会員の
米田大気君
祝入会
おめでとう
ございます

新入会員の
長岡敏郎君
祝入会
おめでとう
ございます

第11回(公社)日本青年会議所理事会

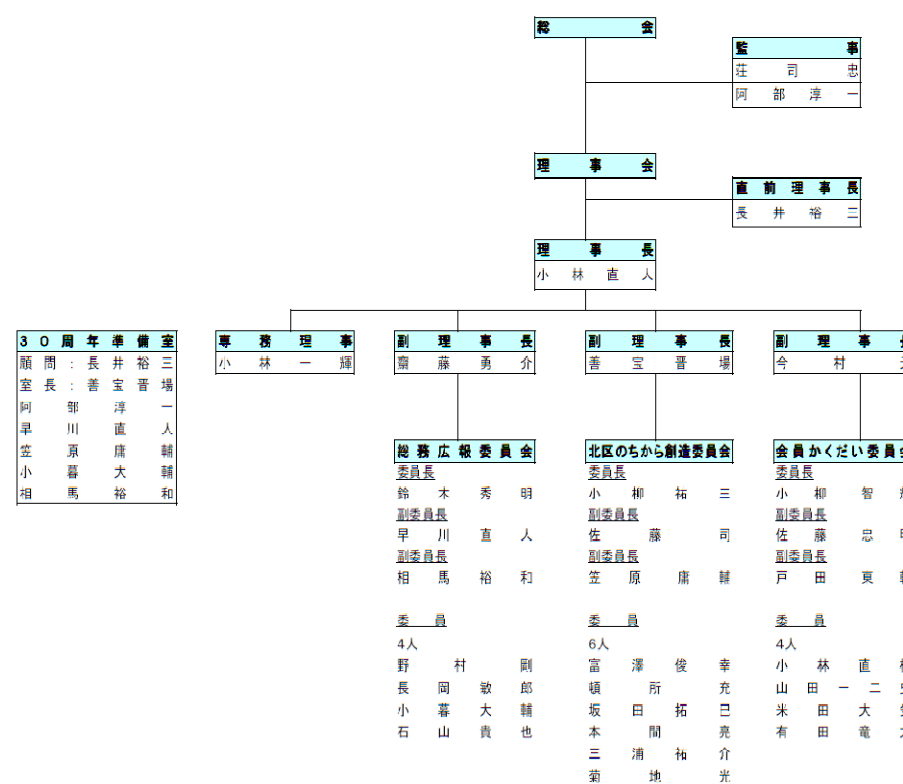
にいつてきました。

にいがた北
青年会議所
承認の瞬間



想いは直前理事長から
理事長へ

2013年度 社団法人 にいがた北青年会議所 組織図



歴史と伝統・誇りを胸に
北区内の明日(未来)に
今できる事

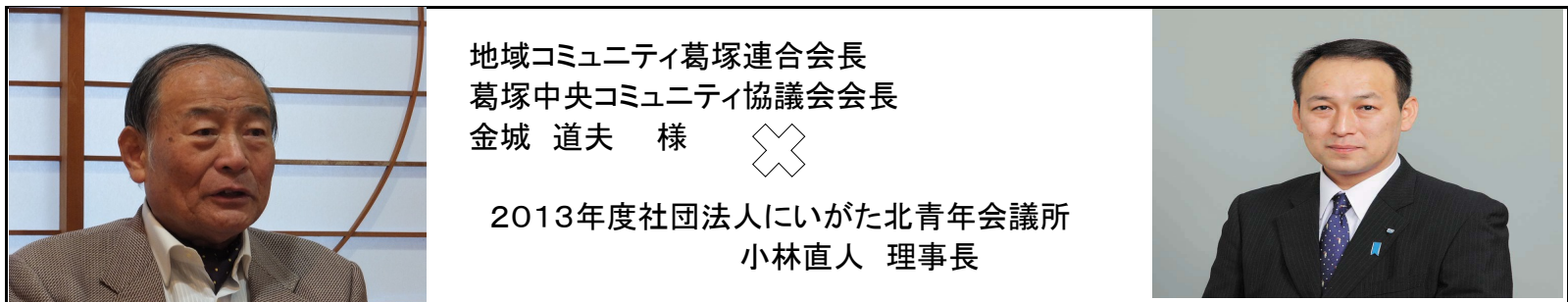
実践躬行

祝
小林直人丸
出航です

にいがた北
青年会議所

理事長対談2013

2013年度の理事長対談は地域で活動をしている団体の代表者からお話をお伺いをするにより、青年会議所として地域のために何が出来なのか、地域のニーズを探る企画です。その記念すべき第1回の対談者は、



地域コミュニティ葛塚連合会長
葛塚中央コミュニティ協議会会長
金城 道夫 様

2013年度社団法人にいがた北青年会議所
小林直人 理事長



理事 今日来ていただいたのは、来年、豊栄青年会議所からにいがた北青年会議所名称が変わるということで私たちは「修練」という機関誌にて理事長対談をさせていただいています。今回各団体の長の方達とお話をさせていただいて北区の問題点、課題点、そして団体相互の理解、地域に必要とされて意味のある団体として、今後の私達の事業の参考にさせていただきたいということで、地域コミュニティ葛塚連合、葛塚中央コミュニティ協議会会長である金城さんをお願いしました。よろしくお願いします。

金城氏 地域の課題とおっしゃいましたが、我々の活動はあまり目立たない。例えば、1つ目は学校問題、地域コミュニティは特に学校と連携をとっています。親が高学歴になって先生を見下ろすというか、馬鹿にする傾向にあり、子供にはっきり言うって言うんだから！先生よりいい大学を出ているだとか、いくら冗談にしても家庭でそんな話をしていると。尊敬していなければモノも覚えられないですよ。一昔から言う「三歩下がって師の影を踏まず」先生を馬鹿にしたら終わりです。という問題とか、2つ目は高齢者問題ね。この辺でも二件の孤独死が有り民生委員が金城さんちょっと来てくれなんて言うでね、まあ要するに立ち会ってくれと言う訳ですよ。まあ第一発見者になると、自然死だとしても自殺か他殺かいろんな面で第一発見者がいろいろ聞かれるんだって、それも、1回ならまだしも入れ替わり立ち代り来て聞かれるんだって、だから呼ばたんですよ。だから、民生委員とコミュニティが一緒になってですね、年に3回か4回安否確認に回っているんですよ。

理事 貴重なお話ありがとうございます。すみませんが話を変えまして、地域コミュニティとはどういうところか教えてください。

金城氏 コミュニティーとはわかりやすく言うと最初は自治会なんですよ、自治会と何ぞやというと、同じ地域に隣同士の血縁で結ばれた団体で、同じ思いを持って住みやすいようにする一つの団体ですね。そして、コミュニティとは同地域ではなしに同一地域に住んでいて共属感情を持ち同じ地区を良くするために頑張る集団です。同一地域とは何かというと私どもがいま解釈しているのは葛塚は小学校単位ね、木崎・早通・長浦・岡方は中学校単位で葛塚連合とは3つの小学校で

葛塚小学校・葛塚東小学校・太田小学校この3つでコミをしてそれをまとめて連合って言うんですね。そういうことで顔が見える、顔がわかるということで大きい団体だとわからないし小さくなるとなかなか地域の大きな問題を解決できないのでだいたいここでは小学校単位でやっています。今新潟市に80万政令都市の中にコミュニティ協議会が97あります、北区には8つあります。8つに分けてコミュニティ活動をしています、今言ったように小学校単位、木崎で言えば中学校単位でコミュニティを作っています。

理事 いわゆる顔の見えるまちづくりですね。

金城氏 そうです。仲良く、秋になれば山へ行ったり釣りをしたり色々運動会をしたりしますが地域の活動をしながらですね。

理事 魅力ある顔の見えるまちづくりということですね。そういう事なんです！それで先ほど言いました、子供の問題、老人の問題、環境の問題、近くで言えばゴミステーションの問題です。不法投棄があるんです、ということでコミュニティとは顔の見える団体ですね。一つの自治会では、効果の上がらないことでも、幾つかの自治会が一緒になってやれば、効果を上げることができる。即ち、地域生活向上に繋がるということです。

理事 我々の青年会議所も三信条というものが有りまして、修練、奉仕、友情、これは私たち青年会議所の全国の三信条でして、結果は地域のために明るい未来のために私たちも活動しますので、そういう点では非常に似ているなと思いました。



理事 そうしますと先ほどの話なんですけど、活動費が少なくなっている中で誰がそういう活動をするんだという問題点もあると思うのですが？

金城氏 コミュニティーの予算は公のお金であり税金ですから。この地区はありがたくやっているんですが、平成26年度からは指定管理者制度というものがあり、これは何かということこういう活動をやりながら自立をなさい、いつまでもお任せしておねだりではダメだと。今は違うんですよ、もう自立しなさい自分で考えて堂々と役所へ行って同等の立場で言ってくださいということです。先日も地区公民館の大会堂で地区コミュニティの長をみんな呼んで、区長、副区長、担当課長、課長補佐、係長、担当7～8人並べてですよ、各地区どういう活動をしたかと1人1人活動報告しろというわけですよ、その取り仕切りを私にしろと言うんだから、まあ私が進行役をしたんですが、自分の事も言いながらね、まあお金をもらっているからどういう風に使っているかの報告ですよ、そのあと課題を言うと。

金城氏 話をして、ただここで総括で一番最後に話したことが、コミュニティ活動としてお祭りをやる運動会をやる魚釣りをするとか登山に行くとかあるいは芸術文化写真展と文化活動をする、これをコミュニティ活動だと思っている人もいるけど、これは1つの手段です。コミュニティの目的とは何かというと、行政サービスが手の届かないところへ私達コミュニティがフォローするという事がコミュニティ活動なんです。そのために運動会や旅行をするんです。

理事 顔を合わせて仲良くなれば問題点も見えてくるんですね。

金城氏 ちょっと前までは飲みながら仲良くなったものです！

理事 私どもも一緒です！

金城氏 非常に単純なんですね。顔が見える、仲良くなれる、これが基本なんです。そうしながら行政のお手伝いをする。行政と同じ立場で意見しあい行政の手の届きににくいところをお手伝いする、口で言うのは簡単なんですね。

理事 ちなみに民生委員もそうなんですが、何人いて実際それは足りているんせしょうか。

金城氏 足りないんですよ。今現在平均すると200世帯に1人なんですけど葛塚地区だけでも世帯数が7000世帯あるんですよ、単純に200で割ると35人はいないといけないが実際27人しかいないんですよ、てことは1人の負担が200世帯以上になってしまうんですよ。

理事 その200世帯以上を毎月訪問するんですか。

金城氏 そんなことはありません、文章を流して担当を知らせ困ったことがあればご連絡くださいということです。

理事 やはり年配の方が最後困ったとき連絡するのは民生委員なのかなということですね。それだけ大変なのはほぼボランティアでやっているというのは本当に気持ちがないと絶対に続かないですね。

金城氏 そうなんですだから空席が出来ているんです。特にこの辺では早通りが足りないんです。なんとかしたいですね。

理事 それでは最後にコミュニティの立場からみて私達青年会議所の若い私達になにか求めることや期待することがあればお聞きしたいなと思います。

金城氏 結局は今までお話して世のため人のため、そういうような人のため、今見て見ぬ振りをする世の中になっている社会なので、出来たらその反対の気持ちを若い頃から養ってもらいたいイベントとかあるいは奉仕的な新潟医療福祉大がやっている高齢者の車椅子を押してやるとか地味かもしれませんが、これから高齢化社会になっていくんです。今は65歳以上が4人に1人いるんですよ。これがまもなく指で数えるうちに40数%以上の人が65歳以上になるということですよ。要するにそういう社会になった時に、いろんな意味で今から準備のつもりで、そういう問題を考えて特に高齢者を引っ張り出して引きこもりをさせないで、何かをさせる事によって生きがいをもたして、そして健康にして欲しい、引きこもりっていうのはずっと家にいてテレビを見ていて急に倒れる人が統計をとっても、いっぱいいるって言うんです。倒れてからの医療の発達でいつまでも病院に厄介になり、人に看病してもらいそういう風になって社会に悪影響を与えてしまうんです。そういう風にならないようにして欲しいんです。

理事 そういう人たちも私達よりも色々な経験をされているので、引きこもりにならないようにそういう場を提供するのが私たちの使命といいますか今後やっていかなくてはいけない事です。

金城氏 そうですね、難しいけどもお願いしたいです。今、養護施設のような施設が増えているけど私は増えないで欲しいです。

長野県の佐久市という所があるんですがあそこは寿命が1番なんです。それっていうのも皆さんが自分で山行ったりして生活してるって言うんです。亡くなるまで施設に入らない人が多いんです。こういう人ばかりの世の中を作って欲しいんです。だから、どんどん引っ張り出して欲しいんです。

理事 私達もそう思います、なにか協力できるように頑張りたいと思います。



金城氏が提言する「待ったなしの地域課題」

- 子供の生活と教育、学校問題
- 高齢者の孤独死などにも垣間見られる生活支援ニーズの増大、助け合いの社会福祉の課題
- ゴミの不法投棄、減量化、省資源化などの環境問題
- 防災問題、交通マナーの悪化、地域産業の低迷、見て見ぬ振りの世情など、社会変動が生み出した様々な問題